

どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

12月号(NO27)通巻 177号

2020年12月10日(火)発行(毎月10日)

【農暦】肌寒い曇天は更に心を重くする！

○一年が早い。コロナ禍の一年であったが、あっという間の一年である。6日は、上着がいない、温かい陽射しで、まさに、小春日和日である。翌日7日は冷え冷えとした曇天になった。7日の暦に大雪とある。実感がないが、北海道は雪のニュースである。

○4日は「ペシャワール会」の中村哲医師が亡くなられて一年が経つ。8日は、ジョン・レノンが凶弾に倒れた日である。オノ・ヨーコと2人の平和運動故？と言われている。40年前のことである。また、79年前の太平洋戦争の開戦の日である。ある時期まで真珠湾奇襲が映画化されるなど話題になったが新聞の小さな記事だけである。

○時の経つのが速い。無為の時間の多いことを恨みたくなる。また怖い。新聞の記事を見ながら思ってしまう。蓮如の「朝には紅顔ありて、夕には白骨となれる身なり」である。諸行無常である。肌寒い曇天は更に心を重くする。

○草の繁茂が無くなった畑の片付けを、少しずつ進めている。トマト、茄子などの夏野菜の片付けをした。キューイの収穫、里芋は不作だったが、菊芋は豊作だった。野生に近いので豊作とは？である。ブルーベリー周りの篠竹を刈り取る。畑の荒れは想像以上である。数年前の畑の写真を見て驚いた。この時期に、畑の荒れを何とか止めたい思う。

○小豆、黒豆の乾燥していた莢から選別作業を行った。収量が少ないのは承知していたが、やはり少なかった。作付も少なかったが、黒豆はカラスとキジに、小豆は薩摩の蔓に、落花生はほぼ壊滅だった。管理もだが、場所も考えねばと思った次第である。

○ブルーベリー、キューイの剪定は1月から2月が適期と云うので後にして、耕起をしている。畑には長ネギ以外は何もない。笠間の友人から絹さやと菜花の種を頂いた。遅いから直ぐにと言われたので、耕起したばかりのところへ蒔いた。(了)

【楽農】<畑>キューイ、里芋、菊芋の収穫。小豆、黒豆の選別。篠竹刈り、耕起。

【楽市】イベントなど；詩吟例会(12・26日)荒牧地区のクリーン活動(21日)バードゴルフ大会(8日)詩吟の会、共生の会、川柳の会はコロナ自粛で12月例会中止。



<紫の花>小さな庭で。
可憐に咲く。16日撮影



<黒豆、小豆、ピーマン等>不作です。黒豆 4 kg 小豆 0.6 kg。21日撮影

【つぶやき=Tweet】日本政府は一円も金を出していない！

○最近、朝日の「折々のことば」をよく読む。7日には、高橋源一郎が引用されていた。孫引きになるが、“問題山済みの文章だけが、「危険！近づくな！」と標識が出ているような文章だけが、、、わたしやあなたたちを変える力を持っている”と云う。“読み進めるうち不安になり、読んでいることを隠したくなる文章がいいのだと”いう。確かに、整合性のとれた魅力的な「いい文章」は無害なのかもしれない。

○「ペシャワール会」の中村哲医師が残した言葉に、“生きている上で『人として最低限これくらいはしなければ』ということをしていけば、どんなに世の中が変わっても、大体誤りはないのではないか”“我々は、日本政府からは一円の援助も受けていません”がある。

○よく読むと、「危険！近づくな！」と標識が出ているような文章である。“人として最低限これくらいはしなければ”は意外と難しい。“一円の援助も受けていない”は驚きである。アフガニスタンの大統領が中村哲医師の棺を担ぐほどの活動に、日本政府は一円も金を出していない。これで良いのかと思ってしまう。読みながら、行動できない自分が、変えられない自分が寂しくなる。高橋源一郎はこのことを言っているのだと。文章、言葉の重さはその人の重さなのだと思った。雑な文章しか書けない。雑な人間だからだなのだ。

○小型惑星探査機「はやぶさ2」が、小惑星「りゅうぐう」で採取し小さなカプセルを6年の旅から持ち帰った。そして、また旅立った。太陽系初期の成分が残っているとされる。いわば太陽系のタイムカプセルである。地球に帰還したカプセルが8日、神奈川・相模原市のJAXAに到着した。とニュースである。カプセルは竜宮の玉手箱と称されているが、人間時間を越えた夢物語りである。時代の流れに翻弄され続けている者にとって、宇宙時間は想像を超える。

○最近また親鸞（五木寛之）を読んだ。今も末法の時代が続いているとしか思えない。だが、中村哲さんも、ジョン・レノンもいる。良い人は一杯いる。今の世、それ程捨てたものではないが、玉手箱を覗きたくなる。極楽浄土が見えるかも知れない。今は唯、コロナ抑え込みの真摯な取組みが問われている。（了）

○断捨離考：テレビ、パソコンなどを廃棄、廃断捨離リスト作成、進捗遅々は不変。

【後記】時の流れの速さに唖然、今年もあと半月である。 【編集せずランダム構成】



＜手賀沼＞小春日和の散歩で。



＜白鳥が道端に＞＜ジョギングを楽しむ人々＞6日撮影

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；torao.k@nifty.com